

日本ゼオン「液晶テレビ用 光学フィルムの採用拡大」でフル稼働へ

2009年10月29日

日本ゼオン株式会社（社長：古河 直純 東京都千代田区）は、液晶テレビ用の光学フィルム（ゼオノア製位相差フィルム）が世界最大手液晶パネルメーカーに採用が決定したことを発表した。

また、採用を決定した液晶パネルメーカーでは、同社グループ企業の世界最大のテレビメーカーや、日本の最大手テレビメーカーにも液晶パネルを供給している。

現在、薄型・省エネルギーを実現するフラットパネルを搭載したテレビは世界的に普及が進んできている。その中でも液晶テレビは今後の成長率も高く、ライバルであったプラズマテレビを大きく引き離してきている。特に韓国液晶パネルメーカーの躍進が著しく、市場の半分を占めるようになった。

今回採用が決まった、位相差フィルムは液晶テレビの視野角（表示が正常に見える範囲の正面からの角度）を広げるために必要な部材であり、液晶パネルに組み込まれる、偏光板（特定の方向に振動している光だけを通過させるという性質を持たせたパネル）の一部材として使用されており、液晶テレビの画像品質に欠かせない材料である。

今回の採用は、日本ゼオンのゼオノア製位相差フィルムの優れた光学特性が評価されたものである。

現在、液晶テレビ市場では次世代テレビである「LEDテレビ」の開発・上市が進んでおり、これにも高品位な液晶パネルが供給されており、欧米を中心に目覚ましい躍進を遂げている現状から、今後も大きな成長が期待できるという。


このような高品位製品では、日本ゼオンの位相差フィルムの、高透明性、低波長分散、低光弾性などの優れた光学特性がより際立つとともに、低吸湿性、高耐熱性などの特徴についても、液晶パネルの耐久性能を高められることで、液晶テレビの画面品質の安定性向上にも寄与することができる。また、偏光板の製造工程でロールツウロールでの連続生産が可能であるため材料ロスの削減が可能で、高い光学性能と同時に低コストを実現することが出来る。

生産は、富山県氷見市のフィルム工場で日本ゼオン独自の技術による業界初の熔融押し出し方式（原料樹脂に熱をかけて熔融させ、そのまま金型で押し出してフィルムに成型する方式）による一貫生産方式（原料樹脂の投入から位相差フィルム製品完成までが、連続的に行える方式）を

行っているため、安定した品質とコストを実現している。

さらには、これまでの業界で常識化されていた光学フィルム生産方式であるキャスト方式で使用される溶剤を全く使用しないため、環境に優しい工場・製品となっている。

現在、位相差フィルム生産の専用ラインは3系列を含め、総生産能力は年間7,500万平米となっている。今回の採用により、2010年度にはフル稼働となる見込みであり、市場動向を見極め、更なる拡大を図る計画である。

 本件に関するお問い合わせ

日本ゼオン株式会社 **CSR**統括部門 広報室

Tel : 03-3216-2747

[▶ お問い合わせフォーム](#)